

# レッドデータブック

## ■ 環境省レッドデータブック

レッドデータブックは、絶滅のおそれのある野生生物などをリストアップして、その現状をまとめた報告書である。

環境省では、平成7年よりレッドデータブックの見直し作業を開始し、平成12年4月までに動植物全ての分類群ごとにレッドリスト（レッドデータブックに掲げるべき日本の絶滅のおそれのある野生生物種のリスト）を作成・公表した。

これを基にレッドデータブックを順次編纂する計画で、新しいレッドデータブックは、現在、爬虫類・両生類、哺乳類、汽水・淡水魚類、鳥類、植物I、植物II版が刊行されている（平成16年3月現在）。

今回の見直しでは、1994年（平成6年）にIUCN（国際自然保護連合）が採択した、減少率等の数値による客観的な評価基準に基づく新しいカテゴリーに従っているが、数値的に評価が可能となるようなデータが得られない種も多いこと等の理由から、定性的要件と定量的要件を組み合わせたカテゴリーとなっている。新たなカテゴリーの概要は次の通りである。なお、無脊椎動物、維管束以外の植物については、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類の区別はなく、絶滅危惧I類となっている。

## 【新たなカテゴリーとその定義】

### 絶滅（EX）

我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

### 野生絶滅（EW）

飼育・栽培下でのみ存続している種

## <絶滅危惧＝絶滅のおそれのある種>

### 絶滅危惧I類（CR+EN）

絶滅の危機に瀕している種

（クロシジミ、シルビアシジミ、オオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒョウモンモドキ）

### 絶滅危惧II類（VU）

絶滅の危険が増大している種

（ホシチャバネセセリ、ギフチョウ、ツマグロキチョウ、ヒメヒカゲ、クロヒカゲモドキ、ウラナミジャノメ）

### 準絶滅危惧（NT）

現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

（ギンイチモンジセセリ、スジグロチャバネセセリ、ベニモンカラスシジミ、キマダラルリツバメ、クロツバメシジミ、オオムラサキ、キマダラモドキ）

### 情報不足（DD）

評価するだけの情報が不足している種

### 絶滅のおそれのある地域個体群（LP）

地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

## ■ 兵庫県版レッドデータブック

兵庫県では、1995年に地域版レッドデータブックとして「兵庫の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック」を公表した。2003年には「改訂・兵庫の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック」を作成している。

### 【カテゴリーとその定義】

#### 今見られない

兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息・生育していたと考えられるが、現在は見られなくなり、生息・生育の可能性がないと考えられる種。(ヒョウモンモドキ)

#### Aランク

改訂・日本版レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に相当。兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全策の必要な種。

(オオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキ)

#### Bランク

改訂・日本版レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に相当。兵庫県内において絶滅の危険が増大している種など、極力生息環境、自生地などの保全が必要な種。

(ホシチャバネセセリ、ギンイチモンジセセリ、ギフチョウ、ヒロオビミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、クロシジミ、キマダラルリツバメ、カラスシジミ、クロツバメシジミ、シルビアシジミ、ヒメヒカゲ、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、オオヒカゲ、ウラナミジャノメ)

#### Cランク

改訂・日本版レッドデータブックの準絶滅危惧に相当。兵庫県内において存続基盤が脆弱な種。

(キバネセセリ、コキマダラセセリ、スジグロチャバネセセリ、オナガシジミ、ヒサマツミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、ウラギンスジヒョウモン、オオムラサキ)

#### 要注目種

最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種

(ミヤマチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、スジボソヤマキチョウ、スギタニルリシジミ、ムラサキツバメ、ウラキンシジミ)

#### 地域限定貴重種

兵庫県全域で見ると貴重とはいえないが、兵庫県内の特定の地域においてはA、B、C、要注目のいずれかのランクに該当する程度の貴重性を有する種。

(ウラゴマダラシジミ 淡路C 淡路以外注、オオミドリシジミ 淡路C、アカシジミ 淡路C、ミドリシジミ 淡路C 淡路以外注、ゴイシシジミ 淡路C 淡路以外注)

#### 要調査種

改訂・日本版レッドデータブックの情報不足に相当。本県での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

(エゾスジグロシロチョウ、クモガタヒョウモン)